

ボランティア急募

—ご協力お願いします—



【**広田中学校運動会**】7月2日は陸前高田市の広田中学校の運動会でした。「子どもたちは朝からテンションがあがってしまって…」と苦笑しながら、子どもたちの様子を話す大森副校長先生の声もどこか上ずって、また、そこに居合わせた吉家校長先生の顔も緊張気味で、そこには、大行事である運動会が行われることへの「うれしさ」が、生徒だけでなく、先生方にとっても大きいことが滲み出ていました。広田中学校も震災からまた一歩進んだように感じました。広田中学校は漁師町にある学校ですから、写真のように、運動会にも大漁旗が並んで、応援合戦も盛んに行われていました。かつて学校の運動会は、学校の行事でなく村の行事だったと言われておりますが、その感じがまだ色濃く残っている運動会でした。もちろん、この震災が、その雰囲気は今一度持ち込んできているのかもしれない。



【**地元業者支援—ボランティア急募—**】物資提供による支援は、地元業者の流通をできるだけ妨げない方向で支援活動を行っていることは、以前に報告したと思います。しかし、私たちのような小さな団体の影響力などは小さく、陸前高田で言えば、大型スーパー「イオン」やコンビニ「ローソン」などの大資本が、全国チェーンという物流の豊かさを武器に、地元業者の復活の一步先をさらっていくかのような動きを見せています。もちろん、震災があろうがなかろうが、規制緩和の風潮の中では、いずれ同じような結果をもたらしたのかもしれませんが、それが震災によって早まったとすれば、それは憂慮すべきことであると思います。

そんなことを考える中での、今回の地元業者（山十さん）からの依頼は、市内の学校予算の図書費が一斉に執行されたことにより、相当量の図書を一挙に処理しなくてはなくなったのだそうです。加えて、電算処理会社が被災し、再開の目処が立っていないために、それらの仕事も請け負わなくてはならなくなったとのこと。山十さんは、社長さん一家と事務所が津波で流されたことにより、残った従業員での事業の復活を志している学校備品を扱う地元業者さんです。このような業者さんが、今回の震災によって経験しているのは、①学校予算がないために、これまで学校から依頼のあった品物が全くなかったこと、それに代わって大量の支援物資が入ったことで、その部分での撤退を余儀なくされ事業を縮小していることです。②他方、今回の図書のように一挙に執行となれば、事業縮小にも関わらず人手不足に陥ります。都市部であれば「短期アルバイト」でその場を凌げるのかもしれませんが、田舎の顔の見える関係の中で、「人を切ったり貼ったりすること」そのことは、業者の信用問題に関わります。③さらに、会社の建物が流され、仮店舗の状態においては、購入図書を長期保存し、時間をかけてやることも許されていません。

そんな事情を受けて、支援隊では、モビリア仮設地区のセンターハウスをお借りし、7月16日～19日に地元業者支援を行うこととしました。また、同時期に、小友小中学校の理科室の整備の支援も行いたいと考えております。ボランティアを急募です。ご協力をお願いします。たくさんの方のご協力を要請します。

【**「群れ」から「集団」へ**】万石浦避難所での子ども支援は、「修学旅行に行こう」という目的を決めてから、今回で3回目の活動になりました。既に、子どもたちの多くが、親御さんたちに、この企画の話をしているようで、お会いすることができた親御さんからは「聞いています。でも、親がついていなくて、本当にいいんですか？こんな「やんちゃ」な子どもを連れていったら大変じゃないかと思って…」とお話を出してもらったりもしました。確実に、子どもたちの「行く」という意志は「形」に向かいつつあるようです。

しかし、そのように何かに向けて「形」ができつつあると、必ず、そこに乗れていけない子どもたちがいます。学校での学級づくりだと、慎重かつ丁寧に事を進めなければならない過程、今まさに、ここで子ども支援もそんな時期にさしかかっています。

なかなか乗れずにいたのは3人、そのうちの1人は、少年野球チームに入っている小学5年生の男の子でした。彼は、修学旅行の話が出た時も、開口一番「俺、行かんねえから！。野球の練習だから。休まないっから～」と言っていました。私たちが出会った時から、「野球」に拘り、「野球」以外のことにはなかなか関わろうとしない感じがありました。特に、震災後、地域での子どもスポーツや中高生の部活動が通常の活動に戻るようになると、その雰囲気が一層強くなっている感じでした。でも、だからと言って、それ以外のことを知らないわけではなく、まだチームの練習が通常に戻らない時には、地域の津波の様子を私たちに説明しながら、地域の道案内をしてくれたのは、彼でした。もちろん、子どもスポーツそのものが悪いと思っているわけではありません。ただ、生活が野球一色になるなかで、他のことに関わる余裕のなさからか、他の子どもへ、「棘」のある発言を投げかけることがしばしば見られるようになっていました。

少年野球を終えて、夕方近くに教室に姿を見せるとき、彼は、持っていた道具を乱暴に投げ捨て「疲れた！」と力んで見せます。どんなに頑張ってきたのかのアピールなのでしょうが、修学旅行のことが決まるまでは、それをなだめたり、励ましたりしていた支援者たちも、修学旅行という目的ができてから、そのパフォーマンスを過剰に取りあげなくなりました。そんな雰囲気の中で、少年野球チームとは異なる、地域に根ざした異年齢集団のこのグループで、「修学旅行にも行ってみたい」とも思うのでしょうか。「野球の練習を休めるのか、そんなことをしていいのか。やっぱり野球だ、でも、修学旅行にも行ってみたい」、彼は大きな葛藤を抱え込むことになっているのかもしれない。

そんな中で「事件」は、起こりました。日曜日、体調が悪いことを理由に、少年野球

を休んだ彼でしたが、元気に 11 時頃、教室に姿を見せました。どうもさぼったようです。しかし、だからと言って「修学旅行に行く」と決めているわけではないようです。そんな曖昧さからかもしれませんが、誰かを相手に野球をやるわけでもなく、かといって、教室での修学旅行に関わる活動にも加われず、結果「DS をやる」ことになってしまいました。支援者からの「みんなでやれることをやろう」という問いかけにも応じず、それが長引いた結果、強権発動で取りあげられることになってしまったのです。それをきっかけに、ふて腐れること 1 時間半、途中では、机やイスを投げるなどの乱暴も働きました。でも、彼は「家に帰る」と行って教室を飛び出すことはしませんでした。その様子からうかがうに、「事件」にしてしまったけれど、それを自分でどのようにおさめていいのかわからない様子であることも、何となく伝わってきました。

そんな中、復活のきっかけを作ったのは、小学 3 年生の男の子でした。その子は机に突っ伏してふてくされている彼のまわりを大きくまわりながら、「なんか、いやなこと、言われたの?」と繰り返していました。その何回かの時に、彼は首を横に振ったかと思うと、顔をあげて、小学 3 年生の男の子に「キャッチボールやろう」と声をかけて、外に 2 人で出て行きました。こうして「事件」は終わりました。この場にいることを選んだ彼は、その後もう一度、本当に「この教室では DS が使えないのか」を試す行為をしましたが、それ以後は、全く DS には見向きもせず、教室の活動に加わっていました。

今回の支援で、子どもたちは、よくふて腐れていました。写真の子も、ふて腐れた後に、大学生と、まるで「友達」のように二人並んで話をしていました。それは、かれらの要求に応じて遊んでいた時にはなかった反応なのですが、それでも、ふて腐れて外れてしまった集団から、誰かを手がかりに活動に戻る方法を学び始めていて、「集団」ができつつあることを感じるのです。さて、修学旅行は、どうなるでしょうか? まだまだ模索は続きます。



【協力に感謝!!】 ■今回の支援隊のメンバー (14 人) 柿本隆夫 (引地台中学校)、家上幸子 (Ed.ベンチャー事務局長)、清水睦美 (東京理科大学)、荻谷夏子、日比和子 (光丘中学校)、角替弘規 (桐蔭横浜大学)、村田仁美 (和光大学生)、黒木尚之 (合同会社がんばろう)、すたんどばいみー: 宮脇英理・劉麗鳳・長畑シゲミ 大林沙紀・佐藤岳也・甘利悠貴 (東京理科大学学生)

■活動内容 ①小友中学校 支援物資の提供: 地域奉仕活動用具 (鎌・バケツ・ブラシ)
②広田小学校 支援物資の提供: 教職員用文具
③広田中学校 支援物資の提供: 洗濯機、家庭科教材
④モビリア仮設地区 すたんどばいみーによる地域子ども支援 (土・日)
⑤教材業者支援: 山十 (担当 金野さん) 業者支援の相談, 三上教材への支払
⑥万石浦中学校避難所 子ども支援 (土・日)

■ご協力いただいたみなさま (敬称略、順不同、物資・寄付を含む) 6/24 ~ 7/1 菊地敬幸 (引地台中学校)、相場教材, 佐藤岳也 (東京理科大学学生)、近藤美紀 (渋谷小学校)、川合勝広 (会社役員)、大和市中体連バレーボール専門部

【ボランティア応募用紙】 FAX送信先 046-272-8980

お名前 _____ 連絡先 (電話番号) _____

参加希望・参加可能な行程に☑ をしてください。

学校図書の台帳記入・学校仕分け・学校搬入

作業場所 岩手県陸前高田市モビリア仮設地区のセンターハウス
作業内容 学校図書の台帳記入・仕分け
作業日 7月16日 (土) ~ 19日 (火)

※以下の中から参加可能な行程をお知らせください。

- フル参加 15 日夜発 ~ 19 日深夜戻り
- 部分参加① 16 日・17 日のみ参加 (15 日夜発 ~ 17 日深夜戻り)
- 部分参加② 17 日・18 日のみ参加 (16 日夜発 ~ 18 日深夜戻り)
- 部分参加③ 18 日・19 日のみ参加 (17 日夜発 ~ 19 日深夜戻り)

小友小中学校理科室整備

作業場所 岩手県陸前高田市立小友小学校・小友中学校
作業内容 理科室整備
作業日 7月23日 (土)・24日 (日) < 22 日夜発 ~ 24 日深夜戻り >

万石浦避難所「修学旅行へ行こう」子ども支援

支援日時 7月30日 ~ 8月1日
支援場所 静岡県富士サファリパーク・富士山周辺
支援対象 万石浦避難所周辺の小学生 (2 年生 ~ 6 年生 10 名程度)
支援予定 東京駅 (新幹線到着) で出迎えていただいて同行

【注意事項】 (1) 自己負担となるのは、飲食類のみです。
参加費等の支払を希望される場合には、寄付をお申し込みください
(2) ボランティア保険にご加入ください。
※住民登録のある自治体の社会福祉協議会にて加入できます。

今後の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180
Ed.ベンチャー東日本大震災支援 (エドベンチャーヒガシニホンダイシンサイシエン)

NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

〒242-0007 大和市中央林間 3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp

